

1 学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進

学校において人権教育を推進するためには、人権教育の目標と各教科等の目標やねらいの関連を明確にした上で、人権教育を総合的に位置付け、人権に関する意識・態度、実践力を養う活動と各教科等との指導が、有機的・相乗的に効果を上げられるようにしていくことが重要です。

本節では、指導の在り方編第Ⅱ章第1節「1. 学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進」に示された内容のうち、「人権尊重の視点に立った学級経営」「人権教育の充実を目指した教育課程の編成【参考】教育課程の編成に当たっての留意点」等を踏まえた、以下の事例を掲載しています。

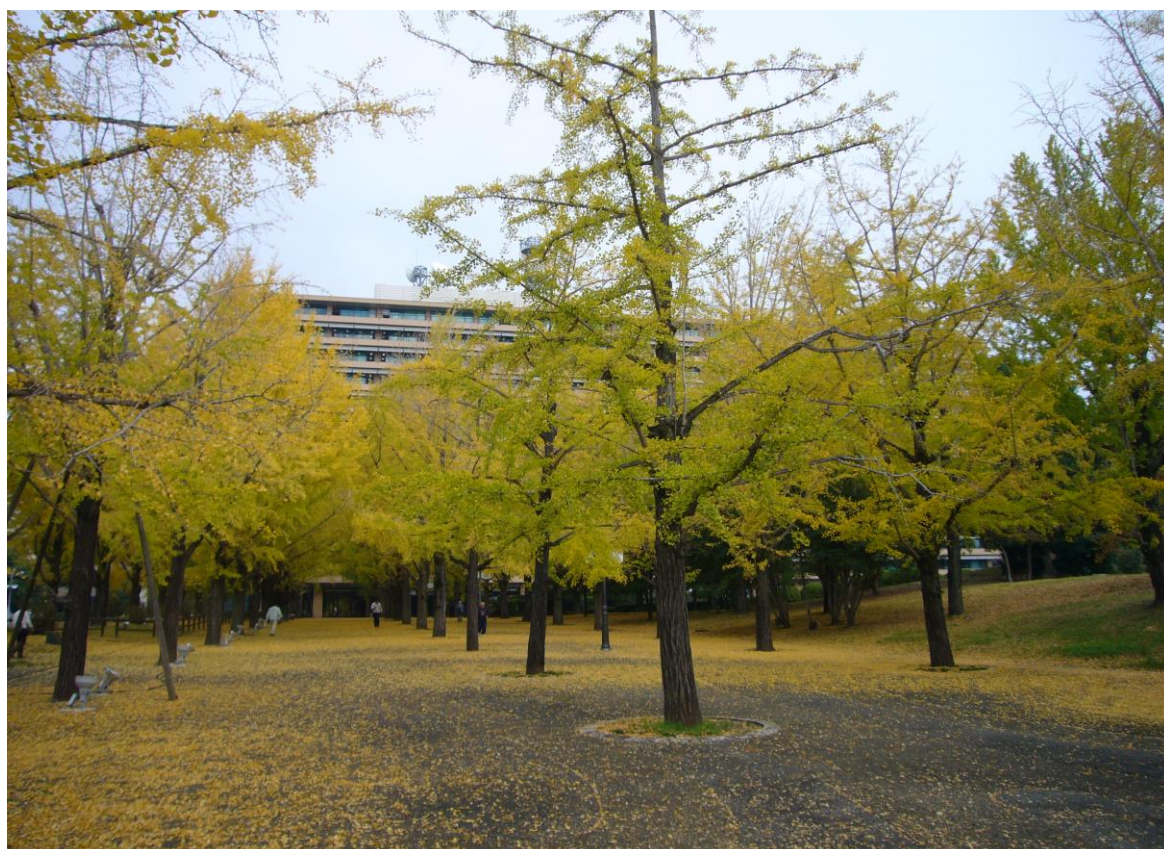
○人権尊重の視点に立った学級経営

事例1 本当のことをたしかめよう

○キャリア教育との関連を図った人権教育

事例2 夢の実現に向けて

事例3 明日への架け橋



人権尊重の視点に立った学級経営

全体のイメージ

人権が尊重され、安心してすごせる学級づくり

自他尊重の意識・意欲・態度、実践的行動力の育成

人権教育を通じて育てたい
資質・能力

- 多様性に対する開かれた心と肯定的評価（価値的・態度的側面）
- 能動的な傾聴、適切な自己表現等可能とするコミュニケーションスキル（技能的側面）
- 他の人と対等で豊かな関係を築くことができる社会的技能（技能的側面）

○家庭・地域との連携・協力
○家庭・地域の教育的ニーズの把握

- ①生徒指導、進路指導、教育相談等の充実
 - 自己に対する肯定的な態度、自己決定や責任感の育成
 - 将来の進路を選択・決定していく能力の育成
 - 児童生徒やその保護者への支援
- ②支持的な学級の風土づくり
 - 学級づくりに参画していこうとする意欲
 - 規範等を大切にし、義務や責任を果たす態度
 - 身のまわりの問題を解決しようとする実践力
 - 自他の大切さが認められているという実感
- ③人権が尊重される教室環境・言語環境等の整備
 - 帰属感を高める学級目標づくりと掲示
 - 日頃から人権学習に親しむ機会の提供
 - ・人権コーナー　・人権集会
 - 安心して生活・学習できる場づくり
 - ・話し方・聞き方スキルなどの掲示
 - ・相互理解を促す掲示
 - ・達成感や有用感を高める作品等への評価
 - 問題意識や課題意識を高める場づくり
 - ・情報コーナーなど問題意識を高める掲示
 - 発見や創造する喜びを味わえる場づくり
 - ・喜びや感動、疑問などを級友に知らせるコーナー

○一人一人が大切にされる授業づくり
○互いのよさや可能性を発揮できる仲間づくり

人権尊重の視点に立った学級経営の観点

自他のよさを認め合える人間関係を相互に形成していけるようにする指導

学級経営の基盤となる確かな児童生徒理解と信頼関係の構築

個々の児童生徒の大切さを強く自覚し、一人の人間として接する教職員

本当のことをたしかめよう ～言語活動の充実を通して～

事例1

実践例（小学3年生）

1 題材設定の理由

学習指導要領の基本理念である「生きる力」の育成において、児童の思考力、判断力、表現力等を育むために、言語活動の充実が重視されている。また、人権教育においても、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」が態度や行動に現れるようにするために、コミュニケーション能力や技能の育成が求められている。

各教科等の学習活動や朝の会・帰りの会等の日常活動の指導に当たっては、児童の言語活動を活性化させ、教科等の目標を達成するとともに、人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成を総合的に位置付ける必要がある。

低学年の児童は、相手のことをよく知らないままに学級生活を送りがちで、場合によってはよく確かめもせずに「たぶん～だろう」と思い込んでしまうこともある。そこで、学級生活全般にわたって言語活動を重視することにより、互いに高め合う学習活動づくりや、相手のことを共感的に理解し、自他のよさを認め合える人間関係づくりにつなげていく。

さらに、「まわりの話をうのみにせず、確かめていく態度」や「自分から人にかかわっていこうとする態度」など人権教育において必要とされるコミュニケーション能力を児童の発達段階に応じて育成することは、きめつけや固定観念、無関心などの克服や、互いの価値を認め合える人間関係づくりなど、児童の将来の生き方の土台となると考え、本題材を設定した。

2 題材のねらい

○話し合い活動を中心に言語活動を充実させることで、児童の表現力を育み、学習の深化や児童相互理解を図る。

◆相手の意見を受け止め、自分の意見を素直に伝えることができるようにする。
〈技能的側面〉

3 実践上の留意点

○小グループでの活動や学級全体での活動を効果的に実施することで、発言しやすい学級の雰囲気づくりや、互いを認め合う人間関係づくりを図る。


○児童同士の間関係づくりを積極的に支援していくために、家庭訪問等を通して、保護者とのつながりや児童理解に努める。

○相互理解や交流を深めるための教室環境づくりに努める。（家庭や地域での様子がわかる作文・好きな本の紹介・子どもの詩の掲示等）

4 学習の流れ（年間の取組）

ねらい

児童同士の伝え合いを通して、自他の価値を尊重しようとする態度や、事実を確かめ判断しようとする態度、コミュニケーションスキル等の育成を図る。

学習活動	指導者の支援及び留意点
<p>学級活動〈望ましい人間関係の育成〉</p> <p>○年間を通して、コミュニケーションスキルの学習等を計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3年生のどうとく」(文溪堂)の「やってみよう」 [道徳の時間との関連を図る授業] ・H17人権教育推進資料 	<p>◎互いの気持ちを分かり合うための方法を知り、自分たちの生活に活かそうとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における具体的場面を想定し、よりよいコミュニケーションの方法について考えさせる。 ・スキル学習では、観察役を置いて気付いたこと等を伝え、考えを深め合えるようにする。 ・各教科や道徳等における指導との関連を図る。
<p>〈実践例〉「だれとでもなかよく」 (3年生のどうとく：やってみよう)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 聞いてみたいことを5枚のカードに書く。 2 カードを相手に見せないように持ち、自由に歩き回る。 3 二人組になり、相手のカードを1枚引き、質問の答えを互いに伝え合う。 (交代しながら行う) 4 活動の感想を出し合う。 	<p>◎相互に情報を交換する活動を通して、自他のよさを知り、互いを理解し合えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を流し、止まるのを合図に二人組を作る。 ・「変だね」「ちがうよ」等、相手の意見を打ち消すような言い方はしないようにする。 ・児童の感想をもとに、仲よくするには、聞いてみる（知る）ことが大切なことを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 友達のことが分かるって楽しいね。 </div> 

日常活動へのつながり

<p>帰りの会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「嬉しかったこと」や「伝えたいこと」を出し合う。 2 感想や意見を交換する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 気持ちが伝わってよかったね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の思いを大事にする学級の雰囲気をつくる。 ・児童同士のトラブルについては、その場で解決することを大切にする。帰りの会では、自分たちで解決できたことや理解し合えたこと等を伝える。 ・意見交換を通して、人権感覚を磨いていけるようにする。（教師の気付きと声掛けが重要） ・自分たちの学級が、自他の大切さを認め合える環境であることを実感できるようにする。
---	---

人権学習へのつながり

学級活動、道徳等

○児童の実態を踏まえ、年間指導計画に沿って、人権教育を通じて育てたい資質・能力を育成する。



- 命や人権を大切に生きてきた人々の生き方（心の豊かさ、たくましさ）に共感し、決めつけや偏った見方のおかしさに気づき、自分のことや生活を考えていけるようにする。
- 学習したことを、自分の経験や学級の出来事と重ねて考え、意見を出し合う場を設定する。
- 必要に応じて、家の人から家族の仕事の様子や思いを聞き取る取組を行い、自分のこととして捉えられるようにする。

日常活動へのつながり

業間タイム「お話タイム」

○週一回、金曜日に実施する。

- 一週間の出来事や心に残ったこと等をグループ内で話し合う。その際、それぞれの話について考えたこと（自分のこと、意見など）を交換し合うようにする。

学習へのつながり

教科学習

◎各教科の目標達成を図りながら、人権教育で育てたい資質・能力を育てていく。



～さんは、どうしてそう考えたの？

わたしは、～だから～と考えました。



なるほど、答えは同じだけど、そういう考え方もあるね。



- ◆互いの意見の違いを認め受容する力や、自分の意見を伝える力を育む。（技能的側面）
- 「友達の考えや思いを聞く」ということを学習の場面においても積み重ね、意識化を図る。
- 「聞いてみてわかった」「なるほど！」など、互いの考えを知ることの有用感・よさを味わうことができようにする。
- 多くの思いや考えを出し合い、互いに考えを高め合う学習活動づくりを通して、学習意欲の向上を図る。

点検・評価

点検・評価

人権教育に関する学級経営目標や学級目標について、教師評価、児童へのアンケート調査、日常の行動観察などから、取組の評価を行い、成果と課題を明らかにし、指導方法の工夫・改善に努める。

5 展開例（学期の取組）

ねらい

- 自分たちの生活を支えている家族や地域の人々の仕事やその思いに触れることを通して、いろいろな仕事や生き方があることに気付かせる。
- 事実を正しく知り、判断して行動しようとする態度を育てる。

家の人への聞き取り（家庭学習）

- ・聞き取りを通して、家の人々の仕事や思いを知り、家族を見つめ直す契機とする。
- ・保護者へ事前に学習の意図を伝え、協力を依頼する。また、聞き取りの際は、「どんな思いで仕事をしているのか」「仕事で大変なこと」などを話していただく。

社会

「はたらく人とわたしたちの暮らし」

- ◎身近な人々の仕事の様子や工夫されていること、思いを知り、自分たちの生活とのかかわりについて考える。
- 地元の農家や工場、スーパーマーケット等を実際に見学する。

家の人々の思いも、聞いてみよう。

- 教師と保護者との連携を図り、保護者の願い等を十分に踏まえながら、児童の学習を支援する。
- 聞き取った内容について、教師が児童一人一人と個別に面談し、児童のとらえ方を確かめる。また、必要に応じて、教師と一緒に聞き取りをしたり、文章に表す手伝いをしたりすることで、家族の仕事をも肯定的にとらえられるよう支援する。

教室環境づくり〈自分の暮らし・まわりの人の暮らしを知る〉

○家の人に聞き取りをしたことを友達に伝える（帰りの会）

1～2人ずつ発表の機会を設ける。また、児童の実態等に応じて、全体やグループで発表を行うようにする。

○書くことを通じた伝え合い（絵日記・詩など）

子ども同士の会話を通じた相互理解へ

うちのじいちゃんも畑で野菜を育てているよ。



人権学習へのつながり

道徳「うちの仕事」(勤労4ー(2):くすのき:小学校中学年用)

○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする。

◆他者の痛みや気持ちに共感し、身のまわりにあるきめつけや偏見のおかしさに気付くことができる。(技能的側面)

- 1 家の仕事について伝え合ってきたことを振り返る。
- 2 教材文を読み、感想を出し合う。
- 3 主人公や家族の思いについて考える。
 - ・「くせえ」と言われた主人公の気持ち
 - ・お父さんのつぶやき
 - ・お母さんの口くせ
- 4 学習を振り返り、自分たちの見方や行動を振り返る。
 - ・「くせえ」と言った小学生の見方
 - ・「ブタのことをよくわかってほしい」と言った主人公の見方
 - ・自分の家や学校での行動を振り返る。
- 5 教師の話を書く。

- 帰りの会を想起させ、家の人の仕事や家族に対する思い等を確認め合えるようにする。
- 大切な場面や言葉を、図として提示し、児童の意見を黒板に整理する。
- 豚に対して愛情をもって接し、仕事をしている主人公の家族の気持ちを考えさせる。
- ペアやグループでの話し合いの場を設定し、安心して伝えることができる環境を整える。
- 自分が聞き取った家族の思いを重ね、主人公や家族の立場に立って考えるよう支援する。
- ◇仕事の大切さに気づくことができる。
- 自分自身や学級生活の中にある、決めつけや固定的な考え方がなかったか見つめさせる。
- 小学生や主人公・家族の豚に対する見方を比べながら考えさせる。
- ◇自分自身や学級生活の中にある、決めつけや固定的な考え方について気付くことができる。
- 教師自身の体験談などを話す。
- ※学習後に、豚舎の様子や家族の労働等を実際に見学する機会を設ける。

点検・評価

取組の点検・評価

各学期で設定した取組の目標(学年・学級)や学級経営の目標について、教師による評価(自己評価、授業評価、児童の日常生活の行動観察等)や、児童による評価(アンケート調査等)を行い、取組の成果や課題を明らかにする。

↓
児童理解や集団づくりの課題整理と取組の構築
指導内容・学習教材・指導方法の工夫改善

8 資料

<参考資料>

- 「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き」(文部科学省)
- くすのき:小学校中学年用(熊本県教育委員会)

キャリア教育との関連を図った人権教育

全体のイメージ

※1 (p30参照)

学ぶこと 生きること 働くこと

キャリア教育で育てたい力

- 意思決定能力
- 人間関係形成能力
- 将来設計能力 ○情報活用能力

人権教育で育てたい力

- 人権に関する知的理解と人権感覚
- 人権尊重の意識・意欲・態度
- 実践的行動力

高等学校

- 自己理解と自己受容
- 選択基準としての勤労観・職業観の確立
- 将来設計の立案と社会的移行の準備
- 進路の現実吟味と試行的参加

中学校

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索

小学校

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

すべての教育活動を通じた人権教育・キャリア教育
各教科 道徳 特別活動 総合的な学習の時間等

家庭・地域社会・企業などとの連携・協力
勤労生産活動やボランティア活動

- 人権教育を通じて総合的に身に付けることが期待される諸要素
- 自分が生きている価値の実感 ○互いの違いの自覚と尊重
 - 人権侵害の歴史的・社会的背景と当事者の生き方の学習
 - 自尊感情・自己開示・平等観など人権課題の解決に共通して必要な概念や枠組みに関する学習
 - 具体的な場面での行動力の育成
 - 人権が尊重される社会づくりにつながるような行動力の育成

夢の実現に向けて

～進路・生き方を見つめて～

事例2

校種等 中学校

1 題材設定の理由

中学3年生は、高校入試をはじめとする具体的な進路選択に直面する時期であり、主体的、積極的な意思決定が生徒に求められる。そこで、社会における自らの役割や将来の生き方、人としての在り方等を見つめる機会を設定し、自分の目標の実現に向けて計画的に取り組む態度を育成することが重要になる。

本題材は、自分の夢を実現した人たちや学童期や思春期の頃からの目標を大切にしている地域の方に対して、中学生のころや現在の思い・願いを聞き取ることによって、自己実現への意欲を高め、自分自身の将来の生き方に活かしていくことをねらいとしている。また、自分の夢や将来について相互の交流を深める活動を取り入れることで、勤労観や職業観を見つめ直し、自他の考えや互いの価値を尊重しようとする意欲や態度を育てることができると考え、本題材を設定した。

2 題材のねらい

- 地域の方の生き方を通して、これまでの自分の生き方を振り返り、将来設計についての意識を高める。
- 自他の夢や希望、将来の生き方や生活を考える活動を通して、社会の一員としての義務や責任を果たしていくために必要な態度や技能を高める。
- ◆自他の考え方の違いに気づき、それらを尊重しようとする態度を培う。
＜価値的・態度的側面＞

3 実践上の留意点

- 日常の取組を通して、支持的風土のある学級づくりや、教師と生徒との信頼関係づくりに努める。
- 教師自らの生き方を生徒に伝えるなど、生徒とともに考える姿勢を大切にする。
- 生徒のかすかなサインも見逃さないように、生徒の日常生活や家庭的な状況を把握しながら学習を支援していく。
- 個人情報取扱いには慎重な配慮を行い、聞き取りをした地域の方や生徒本人、保護者の同意を得た上で学習を進める。
- 取組前と後での生徒自身の変容や学級集団の人間関係がどのように変化したのか検証し、次の取組に活かしていくようにする。

4 人権教育年間指導計画（中学3年）

人権教育を通じて育てたい資質・能力

知識的側面

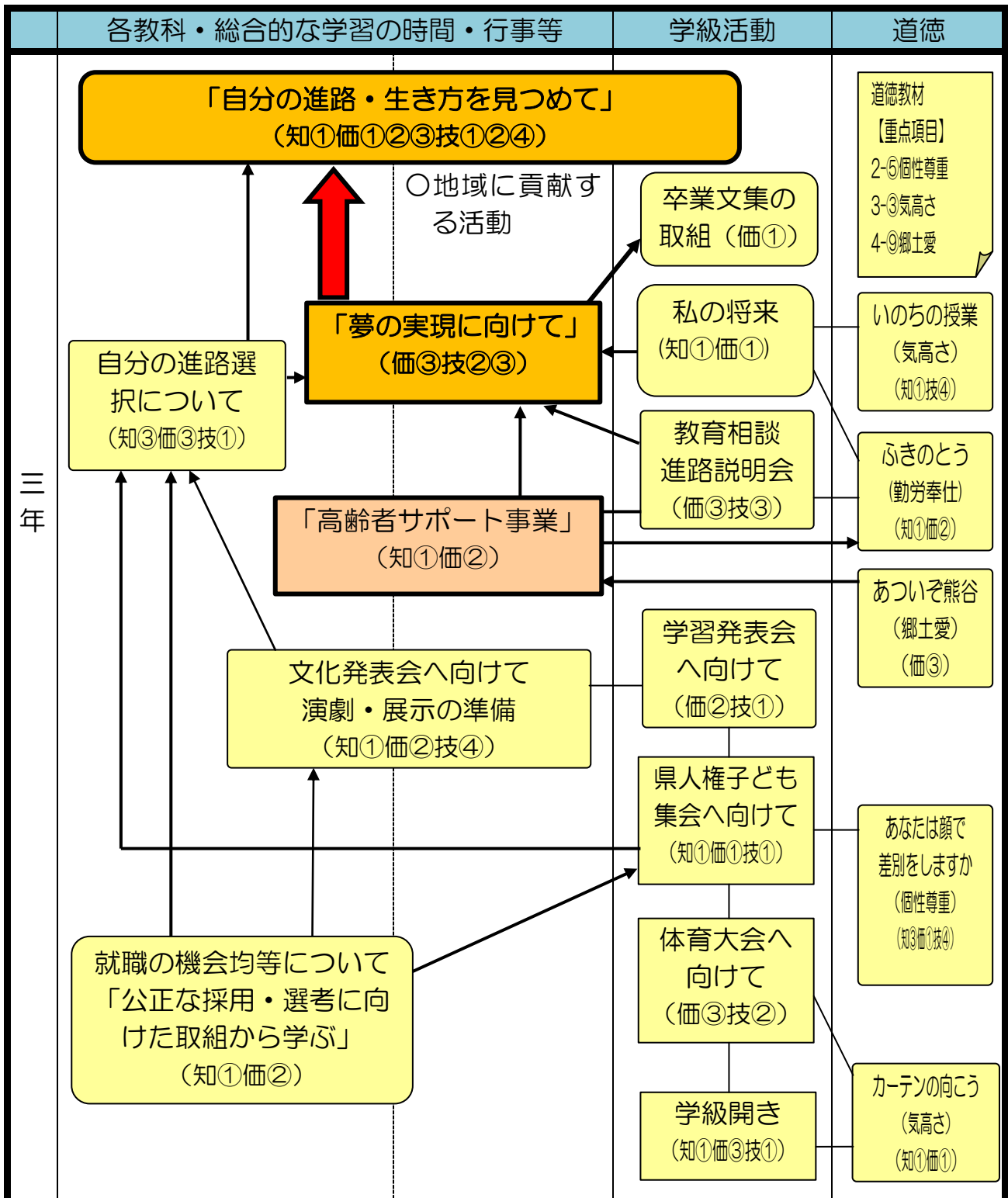
- ①人権尊重の概念
- ②人権問題とその課題
- ③人権侵害の予防・解決方法

価値・態度的側面

- ①自他の肯定的評価
- ②他者の痛みや思いの共感的受容
- ③生活の向上と自立をめざす態度

技能的側面

- ①互いの相違を認め受容する技能
- ②能動的な傾聴とコミュニケーション技能
- ③情報から合理的・分析的に思考する技能
- ④想像力や感受性を駆使する技能



5 学習の流れ

※ → 「展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>事前学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権学習「私の将来」(学級活動) (くすのき：中学校用) ○「高齢者サポート事業」(総合的な学習の時間) ○「進路学習会」(学級活動) ○「ふきのとう」(道徳・勤労奉仕) (心をつないで：教育出版) ○「いのちの授業」(道徳・気高さ) (心をつないで：教育出版) 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の生き方につながる進路選択について深く考えるきっかけとなるようにする。 ・高齢者世帯での活動とともに、話を聞き、思いや生き方を受け入れ、自分の生き方に活かせるように指導する。 ・卒業後の進路について、幅広く考えることができるようにする。 ・勤労の精神や社会への奉仕の気持ちを深め、社会の一員としてじっくりと考えさせる。 ・人間として誇りある生き方やその心情を考えさせる。
<p>「夢の実現に向けて」学習活動 (総合的な学習の時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 アンケートを取り、話を聞く職業の方を決定する。 3 訪問先にアポイントメントを取る。 4 訪問し、聞き取りをする。 5 聞き取ったことをもとに学習シートなどにまとめ、考えを伝え合う。 <li style="background-color: #ccccff;">6 文章にしたものをもとにして、自分の考えた方法で夢や希望を伝える。 7 これまでの活動を振り返り、お礼状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分の夢や希望を見つめ、2年時の職場体験学習やその他の事前の取組と関連させながら、学習のテーマを捉えさせる。 ・自分と同じような夢を実現した人々から聞き取る内容を、事前に生徒から伝えさせることで聞き取りの意欲を高める。 ・訪問先の方に中学生のころの思いや願い、夢などを聞き取るためのインタビューカードを用意しておく。 ・自分とのかかわりを考え、まとめさせる。 ・グループ内で考えを伝え合う。 ・自分の将来の夢や就きたい職業、今頑張っていることなどを多様な方法で伝えるように指導する。 ・自分の考えや行動の変容も伝えるようにする。
<p>事後学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業文集の取組(学級活動) ○「自分の進路・生き方を見つめて」(総合的な学習の時間・学級活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢の実現に向けて」の取組を通して感じたことをもとに、卒業文集を綴らせる。 ・夢や希望を伝え合うことで、他者の違いを認め、生き方に共感できるようにする。

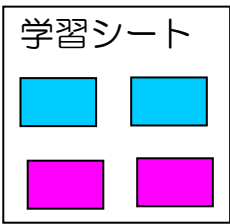
6 準備

- 職場体験学習では、幅広い地域人材を確保する。また、訪問先と事前協議を行い、生徒の興味・関心のある話を聞くことができるようにする。
- 聞き取りメモ用ノート、インタビューの仕方、文章のまとめ方、お礼状の書き方などの支援用カードを準備しておく。

7 展開例

ねらい

- 自分の夢や希望を伝え合う活動を通して、それぞれの考え方を受け止め、自分の生き方についての考えを深めることができる。
- ◆お互いの考え方の違いを認め合い、相手の思いに共感することができる。
 <価値・態度的側面>

主な学習活動	○指導者の支援及び留意点 ◇評価等	備考
1 本時のめあてを知る。 自分の夢や希望を伝え合い、それぞれのよさを見つけよう 	○グループ学習の進め方や役割分担（司会・記録等）を確認し、主体的に意見交換ができる環境を整える。 ○自分との共通点は青の付せん、相違点は赤の付せんに書くようにする。	学習シート 広用紙付せん（2色）
2 グループで自分の夢や希望について伝え合う。	○聞き取りをして共感したこと、悩んでいるところなどもグループの中で伝えるようにする。 ○自分の考えとの共通点や相違点を付せんにまとめ、発表者に感想を伝えるようにする。	
3 友だちから書いてもらった意見（付せん）をもとに、自分の夢の実現に向けて、さらに明確になったことをシートにまとめる。	○個人のプライバシーには十分配慮する。 ◇それぞれの考えの違いやよさを見つけ、自分の考えに活かすことができる。	学習シート
4 グループで話し合っ、自分の考えを深めることができた事例を紹介し合う。	◇それぞれの夢の違い、受け止め方の違いを理解し、お互いの夢を大切にすることができる。	学習シート
5 本時のまとめをし、次時への意欲をもつ。	○本時の話し合いをもとに、自分の夢や希望、訪問先へのお礼状を書くことを伝える。	

8 資料

<参考資料>

- ※1「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き」（文部科学省）の目標を参考にモデルを作成した。
- キャリア教育のススメ（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）
- くすのき：中学校用（熊本県教育委員会）

<生徒の感想>

学習シートの記述例

地域の方のインタビューから、Aさんは、小さい頃からの夢を大切にし、反対していた両親と何度も何度も話し合いを重ねて、とうとう説得したそうです。その道に進むために、県外の大学に進学し、大学の際はアルバイトをして、奨学金をもらいながら勉強を続けたそうです。

Aさんは、夢をあきらめないで努力してきたけれど、それまでに経験したことすべてが、後になって役に立つということを何度も話してくださいました。私も、Aさんとは違うけれど、夢があります。今自分にできることを精一杯やり続け、夢の実現に向けて、学び続ける人になりたいと思いました。

<「学習内容の5」で出された主な意見>

○同じ教室で生活をしてきたけど、こんなに強い思いをもっていたなんて知らなかった。でも、いつも、嫌なことから逃げないで、そこにきちんと向き合い、ずっと努力していたことを知っていた。自分も負けないで自分の夢の実現に向けて頑張りたいと思った。

○自分にも本気で支えてくれる家族や仲間、地域の方がいたから、頑張ることができた。その絆をこれからも大切にしていきたい。

○仕事の苦勞を何度も聞いてきたけど、自分は、反抗したり口ごたえばかりしてきた。自分の親がどんな思いで今まで仕事を続けてきたのか、初めて考えた。友だちの発表を聞いて、これまで以上に育ててくれた家族に感謝する気持ちが強くなった。

明日への架け橋

～自己と社会との関連を見つめる進路指導～

事例3

校種等 高等学校

1 題材設定の理由

社会の経済構造・産業構造の変動等により、雇用の減少や非正規雇用の増加とともに、早期離職やフリーター・ニートの存在など、若者の職業意識にも変化が見られる。そのような中、多様な人々の生き方や職業観に触れ、社会と自己との関係を見つめる学習を通して、働く意義を理解し、自己実現にむけて、主体的に社会参画を図ろうとする意欲・態度を培い、望ましい勤労観や職業観を育成することが求められる。

さらに、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校への体験入学等の参加体験的な学習を通して、進路実現に必要とされる資質と自分の資質を見極め、より具体的な職業観・勤労観を育成しながら、長期的展望に立った人間形成を図ることを目的とする。

指導に当たっては、キャリア教育で求められている、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成を図ることを重視する。キャリア教育と人権教育との有機的な関連を図りながら、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応することのできる資質や能力を育成し、多様性を認め合い自他の人権を尊重する態度を育むことを目指して本題材を設定した。

2 題材のねらい

- 自他の在り方・生き方を考える中で、夢や希望をもち、自己実現への意欲を高める。
- 自分史の作成を通して、家庭や地域社会と自分との関係に気付き、進路選択や決定について、主体的に考える力を育てる。
- ◆他者の在り方・生き方を知り、多様な価値観を受け入れることを通して、自分の生き方を豊かなものにしていこうとする態度を養う。〈価値的・態度的側面〉

3 実践上の留意点


- 取組全体を通して、職業的・社会的自立のための資質や人間関係づくりを考え、技能習得への動機付けや進路意識の高揚につながるように努める。
- 班内発表において、お互いの個性・価値観の相違や多様性を認め合えるよう、日頃より生徒同士の信頼関係づくりに努める。
- 話し合い活動等においては、受容的に話を聞く態度が身に付くように、教師自らコミュニケーションスキルを大切にして学習を進める。
- 学習活動において、これまでの進路学習との関連を意識付け、学習の整理に活かしていけるようにする。

4 準備

ワークシート、付せん、プロジェクタ、スクリーン、パソコン

5 学習の流れ

※ → 「展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>1 自分史の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族や身近な人から聞き取り等を行い、当時の生活をまとめる。 ○本・インターネット等を活用し、社会の出来事や時代背景を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人たち、社会と自己との関係性に気付き、自分自身を振り返る。 ・家庭との連携を十分に図る。 ・身近な人の職業観に触れ、受動的なイメージではなく、職業を現実的に捉える。
<p>2 ワークシートの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路志望の動機等（生き方・人間関係）について記入する。 ○職場体験やオープンキャンパス等の経験を通して感じたことを記入する。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 10px; width: fit-content;"> <p>自分の興味や個性をもっと伸ばしたいなあ。</p> </div>  </div> <p style="font-size: small; margin-left: 20px;">(大学の先生による出前授業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・カウンセリング（進路相談）を通して、進路選択までの経過をまとめ整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路志望や動機の変遷を、家族、友人、地域の人々との関係の中で捉えることができるようにする。 ・書きたくないことを無理に書かせることのないようプライバシーに配慮する。 ・イメージしていたことと実際に参加して感じたこと・学んだことの相違に気付き、自己の内面的な変容につながるよう具体的な視点を与える。 ・進路選択に至る自分の職業意識の変容を明らかにできるように支援する。 ・個人としての学習の深まりと集団としての学習の高まりを関連して意識するように促す。 ・勤労観や職業観を深め総合的な進路選択につながるように、自分史の学習を想起するように促す。
<p>3 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループでの意見交換 ○クラスでの意見交換 ○まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表を聞き、自分史の学習と進路選択との関連を考えるように促す。 ・将来へ向けた資格取得や技能習得を、生涯学習の視点で捉えるよう支援する。 ・学年や学校への情報発信を意識して学習をまとめられるように支援する。


6 展開例

ねらい

○意見交換を通して、多様な考えを受け止め、自分の進路選択についての考え方を深める。

◆自他の考え方の違いを認め、相手を尊重しようとする態度を身に付ける。

＜価値・態度的側面＞

主な学習活動	○指導者の支援及び留意点 ◇評価	備考
<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <p>2 意見交換（グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの進路についての動機、進路選択に求められる資質について、お互いに質問し、気付きを出し合う。 相互に出し合った付せんから、自分の進路に必要なとされる資質を考察する。 グループでそれぞれの意見を聞き、自分の進路選択に向けて気付いたことや、今後身に付けたいことをまとめる。 <p>3 意見交換（学級）</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの代表が、班員の気付きについて、学級で発表する。 	<p>○自分史の学習と進路選択との学習でまとめた考えを他者の発表をもとに、さらに自分の進路選択に活かすことを確認させる。</p> <p>○互いに質問し、気付いたことを色別に付せんに書き、用紙に貼り付けていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路を選択する上での動機（赤） 進路を選択する上で必要な資質（青） <p>○色別の付せんを整理し、自分のシートと比べながら、進路選択にとってさらに必要な内容は何かを考えさせるようにする。</p> <p>◇他者に対してアドバイスをする活動を通して、自分の考えと共通する部分と異なる部分を比較し、自分をより深く見つめることができる。</p> <p>○進路を選択する上での動機や必要な資質の二点から気付きを整理し、発表させる。</p> <p>◇自他の考え方の違いを認め、相手を尊重しようとすることで新たな自己・他者発見ができる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>付せん</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>パソコンスクリーン</p>

進路選択と自分の
生き方を整理して
発表しているな

4 学習を通しての気づきをまとめる。

- ・他者との望ましい人間関係をつくり、自己実現を図るにはどのようにするか、についてまとめる。

5 今後、学年や学校全体に対して情報発信を行うことを伝える。

○社会の急速なグローバル化の中で、異文化についての理解、コミュニケーション能力の必要性を伝えていく。

○技術革新・産業構造の変化を踏まえ、常にキャリアアップに努める必要性と仕事と生活の調和を図りながら、生涯に渡り職業生活を主体的に設計できる力が必要であることに気付かせる。

○インターネット等の情報技術を活用し、人権に配慮しながら、情報の収集・発信ができるように支援することを伝える。

○自分たちの学習したことを効果的に伝えられるように、班や学級で協力して取り組めるように支援する。

7 資料

<参考資料>

- 高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究者会議報告書
- 小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き（文部科学省）
- 平成20年度人権教育推進資料集（事例20）
- 自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）

<生徒の感想>

- 自分と社会との関係を調べる学習で、家族や地域のなかで自分がどのように生きてきたのかを見つめ直すことができました。自分の考えや思いをうまく伝えるのに苦労したけど、班の友だちのこれまでの経験や進路についての考えを聞いてよかったです。地元の幼稚園でのインターンシップでは、子どもたちと一緒に遊んだり本気でぶつかり合ったりする経験ができました。将来は保育士になって、自分や家族や生まれ育ったふるさとが大好きだと言えるような子どもたちを育てていきたいです。
- 家族への聞き取りとみんなの発表を聞いて、これまでの自分と今の自分がつながり、これからの自分の将来像が具体的に描けるようになりました。ボランティア活動に参加したり、グループ学習でみんなからの気づきをもらったりする中で、自分の気持ちを相手に伝える力がもっと必要だと思うようになりました。家族や友だちなど身近な人への感謝の気持ちを忘れずに、大学進学後は広い視野で社会の仕組みについての勉強をしたいと思います。